

[活動報告]

留学生コンシェルジュによる「グローバルセッション」の歩み

— 東北大学附属図書館の国際交流活動 —

西村 美雪

1. はじめに

東北大学附属図書館本館（以下、当館）では、平成27（2015）年度から、留学生と日本人学生のための国際交流イベント「グローバルセッション」を行っている。

当時発足から3年目を迎えていた当館の留学生スタッフである「留学生コンシェルジュ」（後述）の活動機会の拡大と、前年（平成26（2014）年10月）に新設されたグローバル学習室¹の活性化の目的でスタートした。企画は留学生コンシェルジュによるもので、当館情報サービス課参考調査係²がサポートする形で実施している。令和元（2019）年7月までに15回実施し、留学生コンシェルジュの活動の柱となっている。グローバルセッションについては、筆者らの前報³で簡単に触れたが、その後の企画内容や運営方法の見直し、学内の関連部局との連携によって、図書館単独のイベントから全学的に展開するイベントへと進化している。本稿ではあらためてグローバルセッションの歩みを振り返り、今後の展望を考察したい。

1.1 東北大学のグローバル化の状況

東北大学（以下、本学）は、明治40（1907）年の創立以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、日本を代表する研究総合大学としての歩みを重ねている。特に国際交流に関しては、帝国大学

の時代から留学生を積極的に受け入れ、国際的な研究交流を進めてきた。また近年は政府の一連の国際化・国際連携支援事業に採択される⁴など、卓越した研究力を背景に世界的にも高い存在感を示している。具体的な推進策については前報でも概観したが、その後の総長交代を経ても、本学のグローバル化は一貫して推進されている。

この1年ほどの動きとしては、平成31（2019）年4月に、高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター（以下、GLC）に「留学生ヘルプデスク⁵」が新設され、留学生の生活面の支援体制が強化された。令和元（2019）年9月には、総長直下の組織として「国際戦略室」が設置され、「東北大学の国際戦略：最先端の創造、大変革への挑戦⁶」が策定されている。

教職員に対しては、国際化に対応できるグローバルマインドセットや異文化理解を深めるための実践的な研修が行われるなど、全学的な環境整備が一層進んでいる。

本学の留学生に関する統計データを確認すると、留学生数は、令和元（2019）年11月時点で2,438名（正規学生＋非正規学生）となり、この10年間で約1,000人増え、全学生に占める割合も過去最高の13.11%となっている⁷。現在、多くの世界トップレベルの大学・機関と学術情報協定を締結し、活発な留学生や研究者の派遣、受け入れ、相互交換が行われている⁸ほか、日本人

1 講義やイベントでの利用が可能なラーニング・コモンズと、留学生向け図書、留学希望者向けの海外情報・語学学習書、留学パンフレットを集約したコーナーで構成される。

2 組織再編により令和元（2019）年7月以降は、情報サービス課学習支援係が担当となっている。

3 西村美雪、大友美里、吉植庄栄、東北大学附属図書館本館 留学生コンシェルジュ5年間のあゆみ、東北大学附属図書館調査研究室年報、2017、4、p.95-104. <http://hdl.handle.net/10097/00104402>

4 本学は平成21（2009）年に「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」の拠点13大学の1つに採択された。さらに平成24（2012）年には「グローバル人材育成推進事業（全学推進型）」にも採択され、この両方に採択された唯一の国立大学となった。また平成26（2014）年度に「スーパーグローバル大学創成支援（トップ型）」に採択されたのを受けて表明した「東北大学グローバルイニシアティブ構想」では、「世界から尊敬される『世界三十傑大学』の一員になるこ

と」を目指すとしている。

5 東北大学グローバルラーニングセンター、「留学生ヘルプデスクを開設しました」、東北大学ウェブサイト、<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2019/04/news20190403-02.html>、（参照2019-12-25）。本学の学生が交代制で勤務し、ピア・サポートによる生活面の相談を受け付けている。

6 平成30（2018）年11月に公表された『東北大学ビジョン2030』中に示された「戦略的な国際協働の深化（重点戦略⑦）」を実現すべく、さらなる国際化に向けた指針と行動計画を明示することを目的として策定されたものである。<https://ie.bureau.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/12/TUIS-JP-full.pdf>、（参照2019-12-25）。

7 東北大学、「外国人留学生数」、東北大学ウェブサイト、<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/aboutus/data/>、（参照2019-12-25）※過去分は学内限定公開。

8 東北大学総務課国際企画課、学術交流協定、<https://ie.bureau.tohoku.ac.jp/partners>、（参照2019-12-25）。

学生の留学を促進するための多様な海外研修・留学プログラムの・プログラム等も整備されている。

1.2 留学生コンシェルジュサービスとは

本学が「グローバル人材育成推進事業(全学推進型)」に採択された数か月後の平成24(2012)年11月、当館における「留学生コンシェルジュ」サービスがスタートした⁹。

コンセプトは、「留学生による留学生向けの図書館利用支援・学習支援サービス」で、(1)外国人留学生への学習支援および不安の解消、(2)日本人学生との異文化交流、(3)就業体験による留学生コンシェルジュ自身の育成を目的としている。世界各国出身の大学院生等の留学生を「留学生コンシェルジュ」として雇用し、言葉の壁等の理由で図書館を活用できない留学生を主対象に、レファレンスデスクに隣接したコンシェルジュデスクにおいて、先輩として図書館の利用方法や文献の探し方などのサポートやアドバイスを行うというものである。留学生による留学生向けのピア・サポートの理念、そして英語に限定せず、中国語やインドネシア語なども対象とした多言語展開が開始当初からの特徴となっている。

平成29(2017)年3月に定めた「東北大学附属図書館学習支援ポリシー¹⁰」には、それまでの留学生コンシェルジュサービスの実績を踏まえて「グローバルラーニング支援」が以下のように明文化された。

『4. 国際社会で活躍できる人材育成のためのグローバル・ラーニングを支援する』

このことにより、受入留学生のみならず海外に興味を持ち海外留学を希望する日本人学生に対しても、様々な観点からの積極的な活動が期待されることとなった。



図1. 留学生コンシェルジュの広報ポスター

2. グローバルセッション実施の背景

2.1 留学生コンシェルジュサービスの変遷

留学生コンシェルジュサービスは、学内の留学生施策充実経費を活用して運用していたが、サービス開始後の実績が評価されたことにより、継続的な予算獲得につながっている。しかし、サービス開始3年目頃までは、コンシェルジュデスクでの相談対応や、館内サイン・利用案内等の翻訳(多言語)、オープンキャンパスにおける高校生向けのトークイベント、外国からの来客に対する館内案内等、デスクワークの延長上にとどまっていた。

前述のように、本学のグローバル化はその間も加速的に進み、当館も大学図書館としてそれらに対応した新機軸を展開する必要性が強くなっていった。

そのような中、留学生コンシェルジュが留学生・日本人学生と双方向の交流を行う機会として平成27(2015)年に開始したのがグローバルセッションである。これを契機として、グローバルセッション以外にもデスクでの活動にとどまらない様々ないくつかの新企画を展

9 導入経緯等は、情報サービス課「ラーニング・コモンズにおけるピア・サポート：留学生コンシェルジュの導入事例報告」東北大学附属図書館調査研究室年報、2014, 2, p.45-49.<http://hdl.handle.net/10097/56665> 及び前掲3を参照のこと。

10 東北大学附属図書館「学習支援ポリシー(平成29(2017)年制定)」東北大学ウェブサイト.<http://www.library.tohoku.ac.jp/about/index.html>, (参照2019-12-25)。

開していくことになった。

時系列で見ていくと、平成 28 (2016) 年度の多言語利用案内の作成¹¹、オンラインチャットレファレンス“Ask A Librarian”¹²の開始、平成 29 (2017) 年度の広報プロジェクト開始 (動画による図書館紹介及び利用案内¹³、英語版図書館報の発刊¹⁴)、平成 30 (2018) 年度の中国人向け情報発信¹⁵等である。

なお、留学生コンシェルジュのこれまでの活動に関しては、前報³の他、平成 29 (2017) 年度東北地区大学図書館協議会フレッシュ・パーソン・セミナー¹⁶、平成 30 (2018) 年度 第 104 回全国図書館大会¹⁷で報告している。

2.2 グローバルセッション企画の発案

グローバルセッション開始当時のグローバル学習室は、留学生に特に好まれる「居場所」として定着していた一方、留学生向け資料や海外留学情報の存在を積極的に PR する機会も少なく、留学生コンシェルジュも選書や図書展示を行っていたが、デスク業務の合間に行う程度にとどまっていた。また、グローバル学習室設置時のコンセプトである「留学生・日本人学生がともに学びあう」場という点でも、双方向のコミュニケーションを創出するには至らず、学生サークルや留学生関係部局への場所貸しに留まっていた。さらに我々図書館員からのアプローチも不足していたように思う。

このような課題を、留学生コンシェルジュの活動をさらに展開するチャンスであると捉えたことが企画の発端であった。留学生コンシェルジュはサービス開始当初からイベントなどの企画立案ができ、個々の専門性も活かせ、多言語での対応が可能なスタッフを揃えることができていたため、多種多様な活動を行う上の素養・要件が整っていたと言える。しかし図書館のイベントは文献検索講習会等が中心であり、交流イベン

トはほぼ行っていなかったため、まず実施コンセプトを明確にしていった。

当時の企画書には、実施の提案理由として「留学生コンシェルジュの活動及びグローバル学習室の活性化とグローバルラーニングの理解促進を目指し…」としているが、特に以下の 3 点を挙げ「なぜ図書館でグローバルセッションを行うのか」を強調した。

- (1) 留学生コンシェルジュの発信の機会を創ること
 - (2) イベント・展示の両方を通して当館の蔵書に繋げる工夫をすること
 - (3) 参加者とコミュニケーションを重視すること
- これらは現在に至るまで一貫して実践しているコンセプトである。

3. グローバルセッション実施記録

グローバルセッションの実施時期・頻度は不定期だが、2 年目以降は、年 3～4 回の実施計画を立て、留学生コンシェルジュと担当職員で検討の上、企画を実行に移している。中でも 4 月・10 月の新学期には、留学生向け図書館ガイダンスなどの一連企画を「留学生コンシェルジュウィーク」キャンペーンとして実施し、定例イベントとしての定着を図ってきた。

内容や担当者 (企画者) は毎回変え、留学生コンシェルジュ自身の特技や専門知識をわかりやすく伝える等、留学生・日本人学生ともに親しめる内容とするようにしている。さらに、毎回テーマに連動した図書展示を行うことで、参加できなかった利用者也展示を通して当館の多彩な資料の一端に触れることができるよう留意している。

3.1 実施形態

令和元 (2019) 年 7 月までに実施した全 15 回は、＜トークイベント＞＜講演会＞＜ワークショップ＞＜研究発表＞

11 24 言語 (25 種類) 版の図書館ガイド “Tohoku University Library Basic Guide”. PDF ファイルを本学のリポジトリ (TOUR) から公開するほか、英語・中国語・韓国語・インドネシア語版は小冊子も作成し、当館の他、分館でも配布している。

12 “Ask a Librarian” というメール、電話、オンラインビデオ (またはテキスト) チャットによる相談受付窓口を設置し、留学生の非来館者からの質問・相談を受け付けるサービスである。

13 本館・分館の利用案内の他、交通アクセスから、図書館の各種サービス等のガイドなどを撮影編集、YouTube の公式チャンネルから公開している。チャンネル名: Intl Student Concierge Tohoku University Library.

14 タイトルは “The Concierge” で、年 5～6 回発行している。日本語版の図書館報「木這子」の翻訳ではなく、コンシェルジュ自身が執筆した独自のコンテンツを編集、職員のオーソライズを

経て当館英語ウェブサイトから公開している。http://www.library.tohoku.ac.jp/en/mainlibrary/newsletter.html, (参照 2019-12-25).

15 これまで中国人留学生向けに特化した企画は、中国語による図書館ガイダンス以外おこなっていなかったが、留学生コンシェルジュの中国人スタッフの企画により図書展示や中国語版の図書館報を発行した。http://www.library.tohoku.ac.jp/en/mainlibrary/newsletter.html, (参照 2019-12-25)

16 平成 29 (2017) 年度東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー (於 東北大学附属図書館) http://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/kensyu_fresh.html, (参照 2019-12-25).

17 第 104 回全国図書館大会第 13 分科会「多文化サービス」において、「東北大学附属図書館におけるグローバルラーニング支援—「留学生コンシェルジュ」との協働を通して」と題し、実施体制や運用経費なども含めた事例報告を行った。

＜ビブリオバトル＞といった多様な形態となった（表1）。本節では、それぞれから特筆すべき回をピックアップして紹介する。なお、担当・登壇した留学生コンシェルジュの所属は実施当時のものである。

(1) ＜トークイベント＞：安くて簡単！おいしい！家計も安心！大学生・留学生のための自炊講座(第1回)

第1回は、留学生を含む1人暮らしの学生向けの自炊術をテーマとした。日本で約6年の自炊経験を持つ葉秉杰氏（国際文化研究科）が、自身の経験から、簡単に美味しく安く自炊するテクニックを紹介した。調理中の写真や動画を上映するなど視覚的な理解を促す工夫もされた。また初めて仙台で1人暮らしをする学生向けに、食材の調達方法や、市内のスーパーマーケットをプロットした地図、オリジナルレシピを日本語・英語の2言語で作成し配布した。

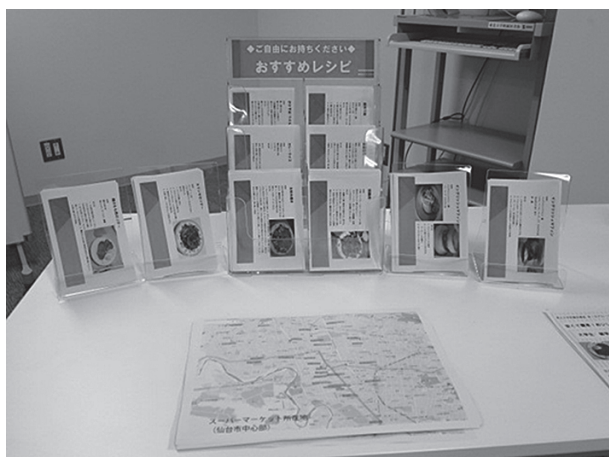


図2. レシピと仙台市内のスーパーマーケットの地図を配布

(2) ＜講演会＞：Dynamic India（第6回）

第6回は、「ダイナミック・インディア」というタイトルで、2部構成のセッションを行った。これ以前は留学生コンシェルジュのみが登壇していたが、この回は初めて学内教員に講演を依頼した。世界的にも影響力を強めているインドをテーマに、第1部はインド映画「ムトゥ：踊るマハラジャ」の字幕監修を務めた国際文化研究科の山下博司教授が、インド社会の急速な変化について、アジアの他の発展途上国と比較しながら講演を行った。第2部は「南アジア みんなの10年」として、インドをはじめ南アジア圏からの留学生4名と、南アジアのフィールド研究をしている日本人大学院生1名が、それぞれの経験に基づいた社会や生活の変化についてのプレゼンテーションを行った。



図3. 講演する山下教授

日本人学生と留学生の両方がこのセッションに多数参加し、登壇留学生に向けて日本人学生が英語で質問する場面も多く見られた。



図4. インド出身のトリシット氏

また、関連企画として、同グローバル学習室にて山下教授の著作をはじめとするインド関連蔵書と食器等の文物を展示する「センシュアル・インディア展」も開催し、様々な展示資料から身近にあるインドを体感できる連動企画となった。

アンケートには、「インドの固定観念を update できた」「各パネリストのスライドがどれも異なった視点、内容でインドとその周辺の国の多様性がよくわかった」「インドについて南アジアのリアルな話をきくことができてよかった」などの感想が寄せられた。

(3) ＜トークイベント＞：YOU! どこへ留学したい？（第7回）

これまでのテーマが比較的留学生向けに偏っていたとの意見から、この回は海外留学希望者向けに特化したテーマを採用した。これには、日本人学生も留学生

コンシェルジュサービスを利用してもらい、留学希望先の様子を出身のコンシェルジュに教えてもらったり、外国語の会話の練習に付き合ってもらったり¹⁸等、気軽にデスクに声がけしてもらいたいというねらいがあった。

対象は、留学を考えている、または海外に関心のある、留学への不安がある日本人学生とし、アメリカ、インド、イタリア、インドネシア、中国出身の留学生コンシェルジュが、それぞれの出身大学と母国での学生生活や異国で暮らすための生活情報、留学生の立場だからこそわかる苦労などを話した。出身者によるリアルな情報提供に対して、アンケートでは「他では聞けない話などユーモアがあり、留学してみたくなった」「留学への希望や不安解消につながった」等の感想が寄せられた。

WARTEGでお得！



図 5. アメリカの大学生活を紹介したジェナ氏のスライドから

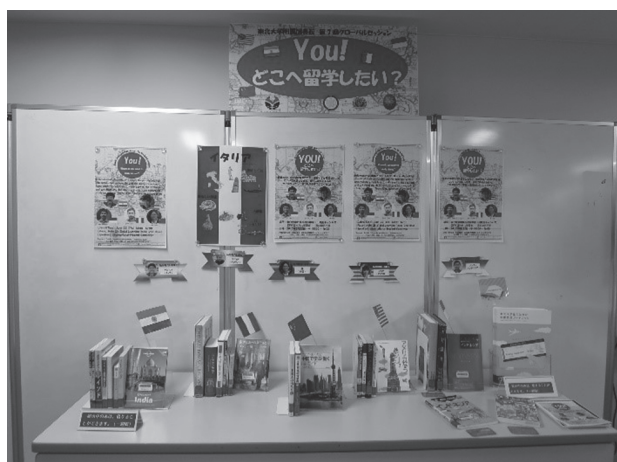


図 6. 紹介された各国に関する図書展示

(4) <トークイベント> : VIVI Sendai! -Let's enjoy your life in Sendai- (第 8 回・11 回・13 回・14 回)

4 月・10 月入学の留学生を対象に、早い時期から仙台そして大学生活に慣れてもらうことを目的として企画した。タイトルの「Vivi」とは、イタリア語で「生きる」の意味で、仙台で生き生きと学生生活を送ってもらいたいという思いが込められている。

Tohoku University Main Library 8th Global Session

VIVI SENDAI!!
LET'S ENJOY YOUR LIFE IN SENDAI!

Concierge members going to tell you how to spend fun time in Sendai and University life.
For example, good points or not good points in Sendai, Also, troubles and solutions in Sendai life etc.
Let's become Sendai lovers!

Date: **October 17 (Tue)**
18:00-19:30 [No need for application]

Venue: Main Lib. Global Learning Room (2nd floor)
Speaker: Member of International Student Concierge;
Davide Bitti (Italy), Kiya Okhlopova (Russia),
Trishit Banerjee (India), Ernei Ribeiro (Brazil)

Contact : Main Library's Reference Desk tel:022-795-5935 mail: desk@grp.tohoku.ac.jp

図 7.Vivi Sendai! ポスター

楽しく充実した学生生活を送る方法について、複数のコンシェルジュが自身の経験をもとに紹介するもので、毎回登壇するコンシェルジュは変わるが、取り上げられるトピックは留学生にとって実用的で生活に密着したものとなっている。

主なトピックは以下の通りである。

- ・ハラルフード¹⁹の入手方法
- ・各種ポイントカード・プリペイドカードの活用方法 (生協やコンビニ、交通系 IC カードなど)
- ・医療機関の受診方法や日本の健康保険制度
- ・留学生割引のある施設
- ・英語対応可能な美容室やサロン
- ・仙台市内の神社仏閣
- ・仙台市内の国際交流センターや外国人支援制度

18 西村 美雪, 上野 美香, 佐々木 亜紀子, 吉植 庄栄「留学生コンシェルジュサービス向上への挑戦ー国内外大学図書館におけるグローバルラーニングサポートの比較を通してー」東北大学附属図書館調査研究室年報, 2018, 5, p.79-88. <http://hdl.handle.net/10097/00122451>

19 「ハラル」とはアラビア語で「許された」の意でイスラム教の教義に従っていると判断されるもの。「ハラルフード」は必要な作法どおりに調製された食品をいう。(出典: デジタル大辞泉)

- ・母国料理のレストラン
- ・研究室になじむコツ
- ・お手頃なスーパーマーケットや市場紹介

中でもジョナサン・スティマー・アダム氏（理学研究科）による“Adjusting to Lab-Life in Sendai”と題した研究室に適応するためのアドバイスは、参加者の評判も良く、その後の回でも登場してもらうことになった。また、他の留学生コンシェルジュもメンターを持つことや学内外の相談窓口を利用することは重要だと強調している。本学では、留学生課の国際交流サポート室²⁰や学生相談・特別支援センターに留学生のサポート窓口があるが、先輩からのアドバイスも効果的であることがわかった。また我々職員にとっても、留学生が抱える（恐れのある）不安や悩みを把握しておくことが必要だという認識を新たにすることができた²¹。

その他、ハラル対応レストランやハラルフード食材店の紹介などのムスリム留学生向けの話題も関心が高かったことから、各回で継続して話してもらうようにしている。



図 8. アメリカ出身のジョナサン氏のスライドから

このような先輩の経験談を聞く機会は、新入留学生にとってはできるだけ来日（来仙）後早い時期の方が効果的であることは予想できたが、平成 30（2018）年度までに実施した第 8 回・第 11 回は、他行事との日程調整や準備のため、授業が本格的に始まった後の開催となっていた。そのため、イベントに参加する時間を確保しづらく、生活にも慣れた頃であるため、アンケートでは「もう少し早い時期に開催してほしい」との要望もあった。

そのような中、かねてから広報等で相互協力関係にあった GLC の複数教員に相談したところ、Vivi Sendai! が非常に良い試みであるとの評価をいただき、さらに学内の留学生関係部署がそれぞれに留学生向けイベント等を行っている状況は効率的でないことから、すでに GLC が春秋の新学期に主催している全新入留学生対象のオリエンテーションイベント「Welcome Week（以下、WW）²²」のプログラム内に組み込んでどうかと提案があり、第 13 回から WW の 1 コンテンツとして実施することになった。WW は事前申込制となっており、留学生課から入学予定者へ留資格認定証明書（COE）等の一連の手続きに関する書類を郵送する際に案内チラシを同封し、申込窓口を一本化したため、広報面での効率化を図ることができた。さらに授業開始前の参加しやすい時期に設定されていることもあり、参加者数は当館単独開催時に比べ数割増加した。

実施後のアンケート（複数回から抜粋）には、「ディスカッションタイムを設けて欲しかった」「またこのようなイベントをやってほしい」「It was beneficial event!」等の感想が寄せられた。

20 東北大学教育・学生支援部留学生課. “TU サポート：国際交流サポート室による留学生のための各種情報サイト”. 東北大学ウェブサイト. <https://sup.bureau.tohoku.ac.jp/index.html>, (参照 2019-12-25).

21 留学生に限定していないが、学生のメンタルケアについての学内研修として、PDP 教育関係共同利用拠点提供プログラム SDP シリーズとして、「多様な学生の理解と支援：留学生と LGBT 学生に注目して」が開催された。（主催：東北大学 高度

教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター／学生相談・特別支援センター 共催：筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター）. <https://www.heij.jp/events/event/191212>, (参照 2019-12-25)

22 東北大学 グローバルラーニングセンター. “2019 Fall Welcome Week for new international students”. 東北大学ウェブサイト. <https://www.insc.tohoku.ac.jp/english/seminar/29657/>, (参照 2019-12-25).



図 9. 参加者との集合写真

Vivi Sendai! は、令和元（2019）年10月のWWでも学内2キャンパスで実施した他、令和（2020）年4月にも同様に実施予定で、新学期の恒例イベントとして定着しつつある。

(5) <研究発表>：カズオ・イシグロの作品及び日本との関わりについて（第9回）

この回は、平成29（2017）年のノーベル文学賞を受賞し、注目を集めた日系英国人作家カズオ・イシグロを研究対象にしている林宜佳氏（国際文化研究科）が担当した。5歳で英国に渡ったイシグロ氏が、日本のことを作品の中でどのように再現しているのか、また日本映画からどのような影響を受けたかについて分かりやすく解説した。参加者はイシグロの小説が小津安二郎監督から影響を受けていることについて特に興味を引かれていた。

会場は学外者も参加しやすいようグローバル学習室からエントランス付近のカフェに移した。その結果、話者と参加者の距離が近く、アットホームな雰囲気で開催することができた。ノーベル賞の受賞がタイムリーな話題だったということもあるが、コンシェルジュ自身が専門分野について一般向けに発表する経験を積めたことは有益だったのではないだろうか。

なお、この登壇がきっかけとなり、林氏は宮城教育大学附属図書館が開催する「スパイラル・セッション²³」に招かれ同テーマで講話している。



図 10. 館内のカフェで講話する林氏

(6) <ビブリオバトル>：みんなで選ぼう！東北大学図書館のおすすめ本を英語で紹介（第4回）・ビブリオバトル・ワールドカップ（第10回）

第4回では、英語によるビブリオバトル²⁴、第10回には、留学生と日本人学生両方が楽しめるよう、「ビブ

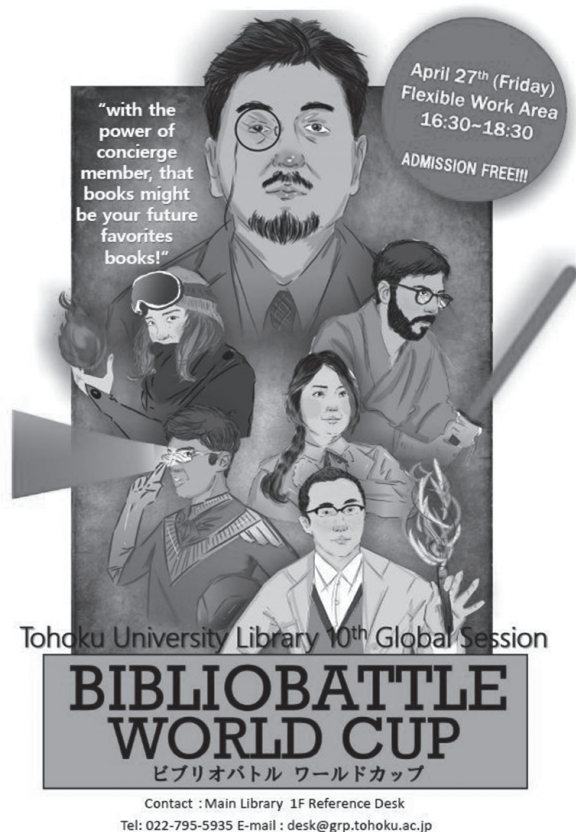


図 11. “Battle” をイメージしたポスター（アンディ氏画）

23 宮城教育大学附属図書館, “スパイラル・セッション”. 宮城教育大学附属図書館ウェブサイト. <http://library.miyakyo-u.ac.jp/banner2/spiral.html>, (参照 2019-12-25).

24 ビブリオバトルは誰でも開催できる本の紹介コミュニケーション

ションゲームで、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーとしている。（ビブリオバトル公式サイトより）, <http://www.bibliobattle.jp/>, (参照 2019-12-25).

リオバトル・ワールドカップ」として日本語・英語の2部構成で行った。ここでは第10回について報告する。

日本語の部では、イタリアやブラジル出身の留学生コンシェルジュの他、本学の日本人学生、福島在住の高校生が登場した。高校生は当館ウェブサイトの情報を見て参加を希望したとのことであった。

紹介された図書は『鯨絵 民族的想像力の世界』、本学出身の人気作家である伊坂幸太郎の『オー！ファーマー』、吉川栄治の『宮本武蔵』、高校生は荻原浩の『月の上の観覧車』とバリエーションに富んでおり、特に留学生コンシェルジュらは日本文化について豊富な知識を披露した。

英語の部では、インド、アメリカ、バングラデシュ、インドネシア出身の4名の留学生コンシェルジュと、本学の日本人学生、飛び入り参加の日本人学生が登場した。井伏鱒二の『山椒魚』やホーキング博士の“A brief history of time”，インド出身の女流作家の小説、インドネシアを舞台にした小説といったグローバルな図書が取り上げられ、イベントタイトルの通り、まさに「ワールドカップ」となった。

観客の投票により、日本語の部では高校生が選んだ『月の上の観覧車』、英語の部では留学生コンシェルジュのトリシット氏（理学部）が選んだ“The Namesake”がチャンプ本に選ばれ、会場から暖かい拍手が送られた。



図12. バトラー全員での集合写真

バトラーのほか、司会も留学生コンシェルジュが務めたが、必要に応じて逐次通訳を行うなど、臨機応変な対応を見せた。また、登壇者の紹介によって意外な当館蔵書を参加者が知る良い機会となったようだ。

(7) <ワークショップ> やさしい日本語の本を読もう！（第12回）

この回は日本語を学んでいる留学生向けに、簡単な日本語で書かれた多読用テキスト等を材料に、日本語を「読み」「話す」ワークショップとした。多読とは「辞書を使わずにすらすら読める」レベルの本を数多く読むことで語学力の向上を図る語学学習法の1つである。英語の他、日本語学習にも取り入れられている²⁵。

企画は本学文学研究科で日本語教育学を専攻する魯海蘭氏によるもので、テキストとして使用する日本語の読み物の選定とレベル分け、読書記録シートの作成及び当日の進行も務めた。

参加対象は、日本語能力が中級から上級レベル（JLPT N3相当以上）の留学生とした。ワークショップ形式で事前の人数把握が必要だったため、グローバルセッションとしては初めて Google フォームによる事前申込み制をとった。

東北大学附属図書館 第12回グローバルセッション

にほんごほん
やさしい日本語の本を読もう!

～楽しく読んで日本語で話すワークショップ～

日本語を学んでいる留学生を対象にした、日本語の本を読むワークショップをおこないます。
好きな本を選んで読み、日本人学生と一緒に感想を自由に話し合います。いろいろな本を、みんなで楽しく読んでみませんか？

◆使用する図書◆
にほんご多読ブックス
にほんご よむよむ文庫
マンガ など

日時: 2019.1.16(水) 15:00-16:00
会場: 附属図書館2階 大会議室
対象: 日本語レベル初中級（おおむね JLPT N3相当）以上で日本語での簡単な会話ができる留学生
定員: 10名程度
申込: 附属図書館レファレンスデスク ☎022-795-5935
✉ desk@grp.tohoku.ac.jp、または QR コードから
事前に申し込んでください。
(当日参加も可能です)

図13. ポスター

25 日本語多読では、日本語学習者のために作られたレベル別の読み物の他、日本人向けに書かれた読み物（絵本やマンガ、小説等）もテキストとして使用されることがある。本学では1

年生向けの英語多読の科目があり、当館グローバル学習室には英語の他、中国語、フランス語などの多読用テキストも所蔵している。

前半は、あらかじめ6段階の日本語レベルごとに準備した図書（多読用図書・マンガ等）²⁶から好きな本を選んで読み、後半は、3～4人のグループで、読んだ本の内容を材料にして日本語学生を交えて自由に会話をした。また、読書記録シートに記入することで、今後も自主的な読書活動を行えるよう促した。



図 14. レベルごとに分けて並べられた図書

留学生のグループごとに1名ずつ日本人のボランティア学生がファシリテーターとして付き、日本語の「読む」「話す」「書く」をサポートした。各グループでは、本の内容をきっかけに話題が次々と広がり、ファシリテーターの日本人学生に熱心に質問するなど、和気藹々とした会となった。



図 15. 日本人学生のアドバイスを受けながら読む様子

この企画で一番の要となったのが、日本語多読活動で重要な役割を担うとされるボランティア（日本語母

語話者の補助者）の確保であった。公募して趣旨を理解してもらうことは時間的に難しかったが、幸い、本学学習支援センターのSLA²⁷及び同センターの副センター長でもある高度教養教育・学生支援機構の佐藤智子准教授が担当する「【展開ゼミ】学び合いの技法～思考を深め、発想を拡げるファシリテーション基礎演習」の受講生の参加協力を得ることができた。

後日談として、この回のグローバルセッションをきっかけに、魯氏を中心とした日本語多読のサークルが結成され、週に2回程集まって日本語の本を読む活動を続けているそうである。中には学内他キャンパス所属の学生もあり、当館で多数所蔵する、いわゆる「やさしい日本語」を使用した読み物の活用につながっただけでなく、コンシェルジュ自身の研究テーマに関するデータ収集につながる結果となった。さらに日本人学生と日本語で交流する機会を提供するという意味でも有益な回となり、日本人学生の参加によって、グローバルセッションの目的である留学生・日本人学生の相互交流が実現できたといえる。

(8) <ワークショップ>：MANGA DAY! (第15回)

この回は、インドネシア出身のアンディホリックラムダニ氏（文学研究科）とブラジル出身のマリナ・ナシメント氏（文学研究科）の企画によるもので、当館所蔵資料の中でも留学生・日本人学生ともに人気のある「MANGA (comic)」をテーマに、世界のマンガを紹介と、実際に4コママンガを描くという2部構成で行った。

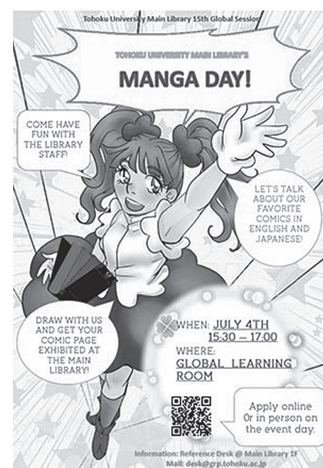


図 16. 当館キャラクターをモチーフにしたポスター（マリナ氏画）

26 レベルの目安は『レベル別日本語多読ライブラリー』『にほんご多読ボックス』に準拠し、本学所蔵図書から選定した。

27 学習支援センターは、主に学部1・2年生（全学教育段階）の学びをサポートする組織で、サポートを担うのは、「SLA（エスエルエー）」と呼ばれる先輩学生たちである。物理・数学・

化学・英語などの学習支援のほか、ライティング支援や留学生向けに「SLA 日本語会話」という日本文化や生活に関する話題について、楽しみながら日本語の会話を練習するイベントも定期的に行っている。<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>、（参照 2019-12-25）。

前半は、マリナ氏がブラジル人マンガ家の作品「モニカと仲間たち」を、アンディ氏がインドネシアのマンガについて、時代ごとの代表的な作品を紹介した。また、ゲストスピーカーとして、ロシア出身で文学研究科助教のオーリガ・コピローワ氏を招き、氏の出身校である京都精華大学（日本で初めてマンガ学科が設置された大学）及びマンガ学科のカリキュラムを紹介いただいた。持参したお気に入りの日本のマンガや作画用道具は、参加者の興味を引いていた。

後半は、マリナ氏の指導のもと、参加者全員が思い思いに4コママンガを描いた。初めてマンガを描くという参加者もいたが、クスリとするような日常のワンシーンや、留学生ならではの視点、季節の風物詩などが描かれた様々な作品を仕上げていた。

当日はアメリカやフランス、ポーランドなどの留学生と日本人学生その他、本学のサマープログラム受講生の飛び入り参加もあった。アニメやマンガをきっかけに日本語や日本文化に興味を持ち、日本への留学を希望したという留学生も多い昨今だが、世界共通のメディアである「MANGA」を通して交流を深めたイベントは、文化が持つ大きな力と可能性を示す内容となった。

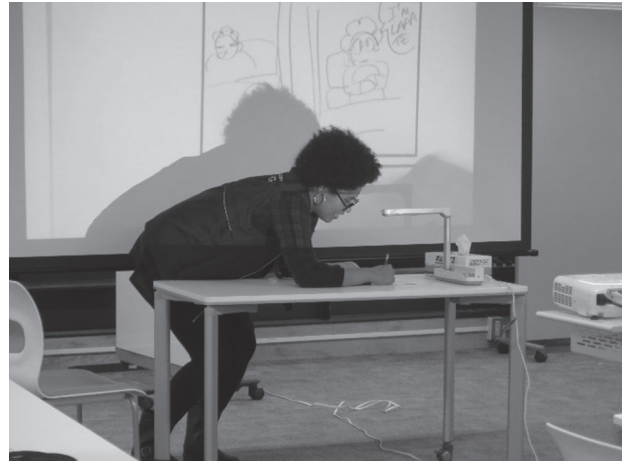


図 17. マリナ氏によるライブ作画



図 18. 熱心に4コママンガを描く参加者



図 19. 完成した作品を持ち集合写真

表 1. グローバルセッションの記録

回	タイトル	形式	実施日時	言語	企画者／ 登壇者(出身または所属)	参加 者数 (人)
1	安くて簡単！おいしい！家計も安心！大学生・留学生のための自炊講座 Self-cooking Lecture: Cheap, Delicious, and Easy Recipes for Undergraduate and Foreign Students	トークイベント	2015.7.31 12:15-13:00	日本語	葉（台湾）	25
2	「すみません」ってお礼の言葉？－感謝場面で使われる表現の違いに気をつけよう！日本語・英語そして時々タイ語 Is "Sumimasen" the Right Word to Express Gratitude?	研究発表	2015.10.26 13:30-14:30	日本語	サリンラット（タイ）	10
3	4 オリジナルグリーティングカードを作ろう！ Let's Write a New Year's card!	ワークショップ	2015.12.16 13:30-14:30	日本語 (適宜通訳)	于楽(中国), 丁(中国), イ（韓国）, 鈴木（オーストラリア）	8
4	みんなで選ぼう！東北大図書館のおすすめ本を紹介 & コンシェルジュと外国のゲームを楽しもう！ Select together! Recommended books of Tohoku University Library. Let's Play Games with International Student Concierge!	ビブリオバトル 他	2016.4.18 13:15-15:30	日本語 英語	于楽(中国), 丁(中国) アルフィアン（インドネシア）, サリンラット（タイ）鈴木（オーストラリア）他学生2名・教員1名	21
5	世界の小麦粉料理－簡単・節約レシピ World's Flour Recipes: easy +low cost=Happy!	トークイベント	2016.10.14 15:00-17:00	日本語	レベッカ（スウェーデン）, サリンラット（タイ）, 丁（中国）, アンディ（インドネシア）, 大友美里（図書館）, 李明実（図書館）, 工藤さくら（文・院）	18
6	ダイナミック・インディア Dynamic India	講演・ セッション	2017.4.21 18:00-20:30	日本語 英語	山下博司教授（国際文化研究科）, 岡光信子講師（高度教養教育・学生支援機構）, トリシット（インド）, ビベク（ネパール）アハメド（バングラデシュ）, ローハン（インド）, 工藤さくら（文・院）	約 50
7	YOU! どこへ留学したい？ Where do you want to study abroad?	トークイベント	2017.6.22 14:00-16:00	日本語	ジェナ（アメリカ）, ダヴィデ（イタリア）, トリシット（インド）, アンディ（インドネシア）, 陳（中国）	18
8	Vivi Sendai! - Let's enjoy your life in Sendai	トークイベント	2017.10.17 18:00-19:30	日本語 英語	トリシット（インド）, エルネイ（ブラジル）, ダヴィデ（イタリア）, キーヤ（ロシア）	17

回	タイトル	形式	実施日時	言語	企画者／ 登壇者(出身または所属)	参加 者数 (人)
9	カズオ・イシグロの作品及び日本との関わりについて Kazuo Ishiguro's Works and the Relevancy of Japan	研究発表	2017.10.31 9:30-10:00	日本語	林 (台湾)	9
10	ビブリオバトル・ワールドカップ Bibliobattle Worldcup!	ビブリオバトル	2018.4.27 16:30-18:30	日本語 英語	日本語の部：ダヴィデ (イタリア), エルネイ (ブラジル), 他学生2名 英語の部：トリシット (インド), アンディ (インドネシア), ジェナ (アメリカ), アハメド (バングラデシュ), 他学生2名	20
11	ViVi Sendai! - Let's enjoy your life in Sendai	トークイベント	2018.10.24 16:30-18:30	日本語 英語	林 (台湾), マトゥリン (タイ), 于晶 (中国), アンディ (インドネシア), エルネイ (ブラジル) サラ (イラン), ティリ (ミャンマー), トリシット (インド), キーヤ (ロシア)	20
12	やさしい日本語の本を読もう！ Have Fun Reading and Speaking in Japanese	ワークショップ	2019.1.16 15:00-16:30	日本語	魯 (中国)	16
13	Vivi Sendai! - Let's enjoy your life in Sendai	トークイベント	2019.4.3 15:00-16:00	日本語 英語	サラ (イラン), 劉 (中国), アンディ (インドネシア), キーヤ (ロシア)	26
14	Vivi Sendai! - Let's enjoy your life in Sendai @Aobayama	トークイベント	2019.4.10 18:00-19:00	英語	ティリ (ミャンマー), アハメド (バングラデシュ), ジョナサン (アメリカ)	12
15	MANGA DAY!	ワークショップ	2019.7.4 15:30-17:00	英語	マリナ (ブラジル), アンディ (インドネシア), オーリガ・コピローワ助教 (文学研究科・ロシア)	11

※各回の内容や報告等は、英語版ウェブサイトに掲載²⁸している。

※表中の登壇者所属等は実施当時のものである。氏名は業務上使用している愛称 (漢字・カタカナ) で表記した。

3.2 図書館員の役割

グローバルセッションは留学生コンシェルジュの自

発的な企画による活動ではあるが、実施にこぎつけるまで職員のサポートが必要である。担当する我々職員

28 東北大学附属図書館, “Global Sessions at the Main Library”, 東北大学附属図書館ウェブサイト (英語版), <http://www.library.tohoku.ac.jp/en/mainlibrary/global.html>, (参照 2019-12-25).

<http://www.library.tohoku.ac.jp/en/mainlibrary/global.html>, (参照 2019-12-25).

が企画実施を通して常に意識してきたことは、「学習支援や図書館利用の話題に留まらず、彼らの専門性やアイデアを重視する」という点であったので、あくまでバックアップ業務を中心に行うことを心掛けた。時には企画の練り直しや、進める上での困難もあったが、試行錯誤しながら徐々にその加減やコツがわかってきたように思う。以下に特に職員が担ってきた点を3つあげる。

(1) 広報

当初は館内ポスター・チラシ、図書館ウェブサイト、図書館公式 SNS²⁹、留学生コンシェルジュからの個人的な広報にとどまっていたが、第7回頃から GLC や各学部等に広報依頼をし、より広い範囲への周知を図った。また関係部局が運営する SNS (Twitter, Facebook) との相互フォローや、学外向けには本学公式ウェブサイトにも情報を掲載した。また学友会報道部発行の「東北大学新聞」等からの取材も積極的に受けるようにした。

ただ、実施後のアンケートによると、イベントの情報源としては「館内ポスターやチラシ」と「知り合い(コンシェルジュ)の薦め」が多く、周知の方法については更に検討が必要であろう。

(2) 関係者との連絡調整と予算管理

実施に当たっては館内の承認を得る必要があるため、毎回企画書を作成している。通常企画者に趣旨や狙いを挙げてもらい担当職員が作成しているが、企画者自身にすべて作成してもらうこともある。また、その後の GLC 等との連絡調整、資料作成の進捗管理、配布物の印刷や会場準備、館内決裁等の諸手続きは職員が行っているが、各コンシェルジュの勤務は週2時間程度と限られているため、人件費の支出状況には特に気を遣うようにしている。

(3) 活動記録のアーカイブ化

開催後は、可能な限り企画したコンシェルジュ自身に報告記事を書いてもらい、前述した当館英語版図書館報“The Concierge”や公式 Facebook に掲載するほか、英語ウェブサイトの実施記録をアーカイブとして蓄積している。

4. 成果と課題

以上、当館における国際交流イベント「グローバルセッション」を振り返った。15回の参加者数は延べ280人に上る。登壇した留学生コンシェルジュは延べ52人となり、すでに本学を巣立ち、世界に活躍の場を移した者も多くいる。最後に15回の企画実施を通して得られた成果と課題を挙げたい。

(1) 図書館事業としての成果

- ・グローバル関連資料の活用
- ・国際関連部署からの評価アップ
- ・他部署、教員との連携強化
- ・留学生事情の収集、ノウハウの蓄積
- ・大学のグローバル施策への寄与

図書館が主体となって国際交流イベントを仕掛けるという点では、学内でも一定の評価を得ることができたと思われる。学内との連携が強化されたことで、図書館業務への理解が進み、さらなる連携へのきっかけとなることも期待される。

(2) 課題

- ・予算的な課題
- ・人員確保などの課題
- ・全体計画立案の難しさ

管理・体制面の課題が一番大きい。安定的に予算と人材を確保するのはどのような企画でも難しいが、明確な活動方針を示し、質を高めながら地道に活動を継続していくことが、解決の糸口になるのではないだろうか。

5. おわりに

筆者は令和元(2019)年7月まで参考調査係に在籍し1回から15回までの運営に関わらせていただいた。それまでイベント運営の経験がなかったため、失敗や反省の連続だったが、それ以上にどの回からも学ぶことが多かった。留学生コンシェルジュらが企画実施を通して頼もしく成長していく様子を通して、本学の「グローバルに活躍できる人材を輩出する」というビジョン達成への寄与を直接感じることができ、毎回印象深く記憶に残っている。

29 留学生コンシェルジュ Facebook <https://www.facebook.com/tohokuunivlib> 多言語 Twitter https://twitter.com/TUL_Global, (参

照 2019-12-25)

留学生や日本人学生を取り巻く環境は今後も日々変化していくことは想像に難くないが、今後もグローバルセッションを続けることによって、グローバルサービスの充実と、大学内での図書館プレゼンス向上につながることを期待したい。

最後に、グローバルセッションを実施するにあたってアドバイスをいただいた先生方、参画いただいた留学生コンシェルジュの皆様、歴代の参考調査係員の皆様、ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 島崎 薫ほか. 東北大学における留学生入学前準備プログラムの実践報告ーサバイバル日本語講座 2017 の事例ー. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要. 2019,5,p.247-260. <http://hdl.handle.net/10097/00125329> (参照 2020-3-3)
- 2) 猪股 歳之, 高橋 修, 富田 京子. 東北大学キャリア支援センターにおける留学生キャリア支援の現状と課題. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要. 2018,4,p.73-79. <http://hdl.handle.net/10097/00123091> (参照 2020-3-3)
- 3) ラムダニ アンディ ホリック. 仙台市における東北大学ムスリム留学生の一日五回礼拝の実態調査. 東北宗教学. 2018,14,p.127-151. (参照 2020-3-3)
- 4) 東北大学グローバルラーニングセンター. 2016 年度 東北大学留学生学生生活調査まとめ. <https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/download/> (参照 2020-3-3)
- 5) 義永 美央子, 潘 英峰. 学修支援の経験を通じた支援者の学び: 図書館ラーニングサポーターの調査から. 多文化社会と留学生交流: 大阪大学国際教育交流センター研究論集. 2019, 23, p.53-64. <https://doi.org/10.18910/71587> (参照 2020-3-3)
- 6) 田村 綾子. 国際交流センターの国際交流活動への取り組みー2017 年度国際交流センター活動報告ー. 環太平洋大学研究紀要. 2019,14, p.207-216. <http://doi.org/10.24767/00000634> (参照 2020-3-3)
- 7) 栗田 聡子. 「三重大学国際交流 Days」の実践による可能性と課題. 三重大学国際交流センター紀要. 2018,13,p.107-121. <http://hdl.handle.net/10076/00017741> (参照 2020-3-3)
- 8) 中橋 真穂. 学内国際交流活動とグローバル人材育成: 学生運営スタッフの PAC 分析より. 多文化社会と留学生交流: 大阪大学国際教育交流センター研究論集. 2017,21,p.1-1. <https://doi.org/10.18910/60439> (参照 2020-3-3)
- 9) 井上 咲希. 金沢大学における英会話イベント「English Hour!」実践報告. 金沢大学国際機構紀要. 2019, 1,p.31-44 <http://doi.org/10.24517/00054018> (参照 2020-3-3)

(にしむら みゆき, 東北大学附属図書館
情報サービス課レファレンス係)